

和をもって

第5号

発行
成相山成相寺

京都府宮津市宇成相寺339
TEL0772-27-0018
<http://www.nariaiji.jp/>

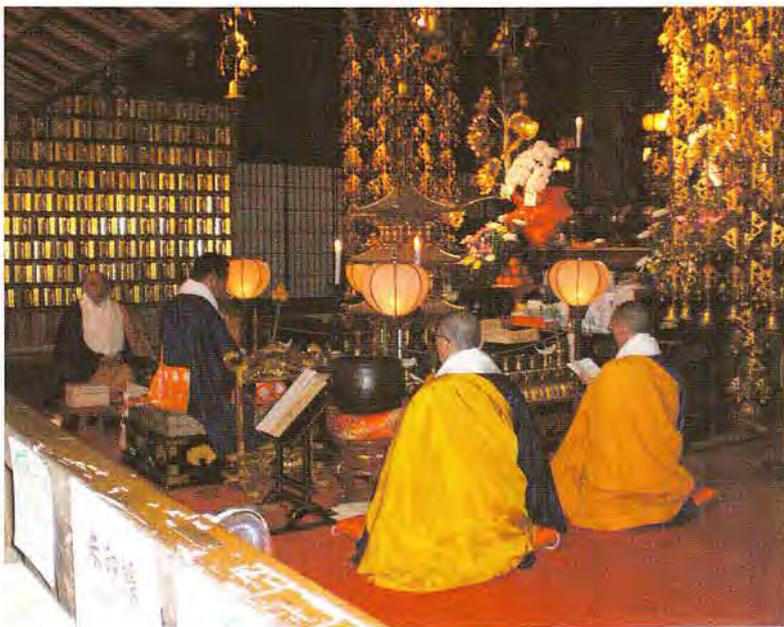
菩薩様に支えられて

紅葉の季節を迎え皆様方には如何お過ごしでしょうか。お伺い申し上げます。

今年の夏は天候不順で各地で災害に見舞われた方が居られる様で、心よりお

見舞い申し上げます。一日も早く心休まる日が来ますことをお祈り申し上げます。

今年ももう節分の案内を差し上げる時期となり、一年の早さに驚きます。春先にこんなお便りを頂戴致しましたのでご披露します。



「父が去年の十一月に亡くなりました。九十二才の長寿で長患いもないままに逝ってしまいました。父は成相寺さんに農協の旅行でお参りに行って以来三十年間毎年星祭りのお守りを頂かしてもらってました。昨年父が亡くなつてから申込用紙を見つけたので今年が最後かと私が代わりに書かして貰いました。去年の名簿を見ると兄弟や孫ひ孫と総数六十名程も書き込んであり、これは大変な事を始めてしまったと後悔しました。でも書き進んでいく内に驚かされました。叔母の連れ合いが病気なので心配していますしひ孫が運転免許を取つ

たので交通安全をお願いしてました。それぞれの願いが毎年違っていました。日頃はあまり喋らない父でしたが名簿の中からは家族を心配する父の声が聞こえてきました。正月が開けると毎年コタツで背中を丸めて何か書いていました。これだったのだと分かりました。書き進む内に姉はもう七十才とか甥の子供が大学受験であるとか、家族みんなの顔が浮かんできて懐かしくなりました。父は毎年こうしてみんなの顔を思い浮かべながらコタツで書いていたのでしょうか。仏さんのお守りも有り難いけど父の願いの詰まったお守りを毎年持たして貰っていたんだと改めて有り難く、父を思い出して泣けてきました。父には大した事は何も出来ないままでしたから今年からは私が父の代わりに勤めさせて頂きます。父の供養と家族みんなのお守りをお願いします。」

嬉しく思えました。家族とは不思議な物で日頃は疎ましく思える兄弟でもたまに会うと通じ合う物を感じますし、何より歳と共に不思議と顔が似通ってきます。ご先祖様もきつと「似てきたなあ。私に。」と笑っておられるのかもしれない。

「菩薩行」という言葉があります。観音様は衆生つまり私たちを見守るために如来の座にお着きにならず菩薩のままに私たちに寄り添って下さっているのだと。「今年は苦勞したね」とか「よく我慢したね」とか、いつも見守って下さっています。お手紙のお父様の深く家族を思いやる気持ちは、まさにこの菩薩行を身を持って行われたのではないのでしょうか。

つくづく感じています。決して一人ではないのです。喧嘩しても何しても、家族は家族です。いつもご先祖様は見守って下さっています。

そして、他ならぬ観音様も寄り添って下さっています。今の世の中、がんばり過ぎないといけない時があると思います。そんな時こそ目に見えない支えを信じて下さい。

観音様はいつも私たちの背中をなでて、ほめて下さったり、励まして下さっています。温かい手です。

今年も皆様のお守りが無事届くよう職員一同気を引き締めて勤めて参ります。有り難うございます。

南無観世音菩薩
合掌 弘眞

山内巡り 第三回

大涅槃図



られるお釈迦様を取り囲んで多くの天部明王菩薩が悲しんでおられます。動物たちも数多く描かれております。成相寺に伝わるこの涅槃図は寛永年間（江戸時代初期）に一度修復されているようですが描かれた時代は特定できません。

今年の九月末より本堂内陣にてこの「大涅槃図」を挙げさせて頂いております。本来ですと涅槃会（お釈迦様が亡くなられた二月十五日に行われる法要）にお祀するお軸ですが、あいにく成相寺はその頃は大雪の中で、なかなかお参り頂けないので、この時期に一般公開させて頂いております。

今から二千四百年前、インドの各地で説法の旅を続けられているお釈迦様は八十才になられて病気になるされました。旅の途中で『これまで』とお感じになられたお釈迦様はクシナガラと云う場所でお倒れになります。そして弟子たちに「諸現象（諸行）は滅び行くもの（無常）である。怠ることなく精進せよ」と最後の言葉を残し、涅槃へ旅立たれました。頭を北に顔は西方浄土を向けて横たわってお

ん。おおよそ五五〇年くらい前（室町時代）の物であるそうです。この図には色々と絵解きの話がありますが珍しいのは猫が描かれていることです。お釈迦様に最後のお葉を差し上げたいとネズミが運ぼうとしたところネコが邪魔をして木の上に引つかかったので差し上げられなかった。このことから十二支の中にもネコは入れなかったと言う伝説が生れた様です。どうしたことか成相寺の涅槃図ではネコもお釈迦様をお見守りしております。

十一月末まで本堂内陣でご覧頂けます。



御縁つながり

毎日いろんな方から、電話や手紙を頂戴します。近況の報告を頂いたり、手作りの「うすさま」さんの手ふきを頂いた。この「うすさま」さんとは、鳥樞沙摩明王の事で、お使所の仏様としてよく知られています。この明王様の炎の功德によって清浄な場所に変えるという信仰が昔よりあります。

「私がおね、手拭いを頂いてきたの。それを利用して手ふきを作ってみたのよ。どうぞ使ってね。」小さなハンガー付きの手拭いを送って下さいました。又、遠く関東の方から「家の庭の花が綺麗に咲いてね。成相山にも植えてみて下さいね。台風の後境内が荒れた。って、ご苦労されてたでしょ。綺麗な紫の花でよく増えるのよ。」と、これも嬉しいお便りです。もうじき株も増えて咲きそろう季節です。他にも毎年椿や紫陽花の挿し芽をして送って下さるご主人もいらっします。「趣味で増やしたのですが良かったら植えて下さい。」と仰って下さいませ。

皆様が我が事のように思っして下さい。そしてお寺を、境内地を守ろうと思っして下さい。その事が何よりも嬉しいのです。他にもお観音様にと毎年決まって清酒をお届け下さったり、季節の果物をお供え頂いたり、お参りの方の為にとお心を尽くして下さいます。書ききれませんがこの場を借りて心より、御礼申し上げます。



を尽くして下さいます。書ききれませんがこの場を借りて心より、御礼申し上げます。